

ユースかわら版

広報誌に関する
「意見」「感想」は
「すい」
へ



報告

多文化体験プログラム について

伏見青少年活動センターでは、ロビープログラムのひとつとして、いろいろな文化を体験できる「ミニベンチ」World Experience』を実施しています。

6月は、韓国からの留学生をゲストにお菓子づくり(カルメ焼き)と韓国語を使った遊びを、8月には韓国人留学生に加え、台湾・アメリカ・フランスから渡日した若者と一緒に、日本と海外の昔遊びを行いました。参加した中高生からは、「韓国が好きだから参加した」「実情を知ることができて良かった」「普段海外にルーツをもつ人と接する機会がないので、一緒に遊べて楽しかった」という感想が寄せられました。6月のゲストが、「面白かった」と8月にも引き続き参加したり、プログラムが終わってからも残って話をしたりする場面も見られました。



るなど、継続して実施しているその良さがあらわれています。
今後、遊び、シリーズや料理プログラムなど、気軽に多文化を体験することが出来るプログラムを実施予定です。ぜひセンターホームページで確認してみてください。

憩いの場



「憩いの場」は、京都奏和高校と伏見工業高校の中にある学校内の居場所です。週に1回、主に金曜日の放課後と休み時間に、高校生がスタッフとおしゃべりしたり、ボードゲームで遊んだり、ぼーっとできたりするような場所です。当協会が、インターン生やボランティアと一緒に運営しています。

2学期はじめの9月2日にはちびっくと元気になれる企画として縁日を実施しました。射的とスパーボールすくいという王道の内容に、「この取り方はアリ!」「〇〇は何個取ったん? 勝ちたい!」と童心に返ってはいっていました!

わかものまちなみサミット開催!



11月6日、中央青少年活動センターにて「わかものまちなみサミット2022」が開催されました。このサミットは静岡に拠点を置く「NPO法人わかものまちなみ」によるイベントで、当協会とユースカウンスル京都も実行委員として参画しました。「若者の表現があふれるまちなみには、どんなしくみがありますか?」と題したサミット当日は、全国各地で「わかものまちなみ」を実現すべく活動している若者や関係者が一堂に会し、子ども・若者の「声」が聞かれる社会づくりや、それぞれの「参加」のカタチについて意見を交わしました。前日はフィールドワークで京都の活動を案内したり、当日はひとつの分科会をプロデュースしたり、同世代で活動する若者と出会うたり...ユースカウンスル京都メンバーも充実した様子で参加が実現していきたくて思いました。



法政大学平塚眞樹教授の科学研究会で、9月にアイルランド・イギリス・フィンランドを訪れました。
アイルランドでは、YMCA Cook「The Rise Project(就業プログラム)」イギリスでは、Bollo Brook Youth Centre Park Royal(工業地帯)にあるトラベラーズ居住地とYNKA(OR)スタジオ等、フィンランドでは、His Helsinki(GBTOA)やPCゲーム活動を視察しました。
最も印象的だったのは、イギリスのユースワーカーが多くの人との出会いから始めたプロジェクトです。例えば、アートスタジオYNKA(OR)は、ユースワークを動画で見せる取組ですが、アーティストとのコラボだけでなく、製作に若者も関わっています。
ユースワーカーだけでなく活動への思いを共有した人たちが力をあわせて取り組む姿は、ユースワークの理想的な形だと思いました。
また、フィンランドのヘルシンキ市(京都市人口の45%の市)にユースセンターがなんと45ヶ所もあり、ユースワークが日常生活に根付いていることを感じました。

欧州ユースワークの現場から学ぶ



これから

センターで出張相談します!

子ども・若者総合相談窓口では、中央青少年活動センター内で相談業務を多く行っています。

しかしながら、相談ニーズはあっても、一歩踏み出せない方もいらっしゃると思います。そこで、私たちが、出張相談を行うことで、「相談する」ということのハードルを下げられないかと考えています。そこで、本年度、11月〜3月まで、伏見青少年活動センターで定期的に「出張相談会」を行います。日時：第2月曜日の12時〜14時まで。予約不要で、ひと枠30分程度です。当日、伏見青少年活動センターの窓口で相談したいとお声掛けください。対象は、京都市内に在住または通学先、勤務先のある39歳までのご本人及びご家族、関係者の方です。将来や仕事、友達や家族、学校や職場のこと、自信が持てない、居場所がないなど、モヤモヤしていることを一緒に整理して、助言や適切な支援機関などの紹介をします。

事業 ヤングケアラー



家族のお世話のために、自分の時間がとれないと思ったことはありませんか? 友達にそんな人はいませんか? 厚生労働省の実態調査によると全国

故 遠藤 保子先生を偲んで



2021年5月に逝去された遠藤先生の偲ぶ会を、6月に生前関わりの深かった方々と執り行うことができました。

遠藤先生は1988年財団設立から理事として就任され、のちに専務理事、理事長、顧問として永年にわたり、協会の運営にご尽力いただきました。

気さくで親しみやすい遠藤先生は、協会、青少年の良き理解者でした。

Chance (チャンス)をつかまえ積極的にChallenge (チャレンジ)しよりよい自分にChange (チェンジ)この~Chance Challenge Change~の3つのCは、遠藤先生が挨拶や職員入職式などで若い人へのメッセージとしてよく使われたステキな言葉です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ご寄付のお願い

当協会では、ユースサービスの理念のもと、以下を柱として様々な取組を行っております。

- ・若者が本来持っている力を発揮する場づくり
- ・若者が課題を乗り越えていくための支援
- ・若者の市民参加、地域社会への参加を促す
- ・ユースサービスの活動を広く知ってもらうための活動

郵便振替口座番号	00950-2-172487
座名義	公益財団法人 京都市ユースサービス協会

※いただいた寄付は広報誌「YOUTH SERVICE」にも活用させていただきます。ご協力お願いいたします。



発行：公益財団法人 京都市ユースサービス協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
E-mail : office@ys-kyoto.org HP: http://www.ys-kyoto.org
印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：株式会社オム